

# 子どもの経験を階層的に生かす幼小連携カリキュラムの開発(5)

## —幼稚園年長「発見・表現の時間」の開発を中心に—

井上 弥 朝倉 淳 池田 明子 君岡 智央  
青原 栄子 石井 信孝 加藤 桂子 金田 敏治

### 1. 本研究の経緯

本研究は、幼小連携研究の歴史を持つ広島大学附属三原幼稚園（以下、幼稚園）及び広島大学附属三原小学校（以下、小学校）での実践を事例として、幼稚園（3歳から5歳）と小学校低学年（第1学年から第2学年）の教育内容を子どもの経験の蓄積という観点から見直し、子どもの経験が階層的に生かされるカリキュラムとして提案することを目的とする。

第1年次は、園児・児童の実態観察・ビデオ分析を通して、めざす子ども像（「身のまわりのものや人に積極的にかかわり、自分でいろいろなことに取り組むことができる子ども」）を設定し、その姿に迫るために、小学校第1・2学年に新教科「発見」科（以下、発見科）と「表現」科（以下、表現科）を設置し、単元開発及びカリキュラム試案を作成した。発見科は認識の基礎を、表現科は表現力の育成を目的としている。

第2年次は、カリキュラム試案に基づいて保育・授業を実践し、同一題材や関連した内容について、発達段階に応じた活動・単元開発を行った。

第3年次は、保育・授業を実践する中でカリキュラムの修正を行うとともに、発見科・表現科を設置したことによる子どもたちの変容の調査・分析を行った。

第4年次は、幼稚園年長の園児が一層「感じたりイメージしたり発見したり考えたりする経験」が積めるように、発見科と表現科の両者の視点で保育を行う「発見・表現の時間」を新設した。そして、園児の実態を踏まえるとともに、小学校発見科・表現科と関連づけて目標を設定し、3本の新しい活動開発を行った。

第5年次にあたる本年度は、「発見・表現の時間」と発見科及び表現科の目標や内容の系統を整理するとともに、「発見・表現の時間」の活動内容の開発を行った。本小論では、その実際についての考察から「発

見・表現の時間」の成果と課題を示す。

### 2. 「発見・表現の時間」の目標

年長児の実態や発見科及び表現科との関連を考え、「発見・表現の時間」の目標を次のように設定した。

身近な自然やものや人に積極的にかかわる中で、様々な感覚をはたらかせて、発見したことや考えたこと・感じたことやイメージしたことを、表したり発展させたりする力を養う。

この目標は次の4点から構成されている。

- A. 身近な自然やものや人に積極的にかかわること
- B. 様々な感覚をはたらかせて感じる
- C-1. 発見したことや考えたことを表したり発展させたりすること
- C-2. 感じたことやイメージしたことを表したり発展させたりすること

これらのことを子どもたちに経験させたり、力を養ったりしたいと考えている。なお、C-1、C-2については双方とも表したり発展させたりする力を示している。その中で、C-1に関しては、「発見科」の視点からとらえたもの、C-2に関しては、「表現科」の視点からとらえたものについて示している。

「発見・表現の時間」では、年長児の遊びが単発的になりやすい現状を打開していくために、遊びがより広がったり深まったりしていけるような活動を展開していく。具体的には、子どもたちが感じたりイメージしたり発見したり考えたりする経験が積めるように、個々あるいは小集団での遊びを生かしながら、クラス全体での活動を柔軟に設定していく。また、小学校の教員が幼稚園の教員と共に教材研究や保育を行うことを通して、子どもたちの発見や表現を更に深めていく支援を行う。

<発見・表現の時間の目標>  
身近な自然やものや人に積極的にかかわる中で、様々な感覚をはたらかせて、発見したことや考えたこと・感じたことやイメージしたことを、表したり発展させたりする力を養う。

経験させたいこと ・養いたい力の 観点	年 長
A 身近な自然や ものや人に 積極的にかかわる こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然やものや人に親しみを感じたり、興味関心をもったりしながら、繰り返しいろいろな方法でかかわることを楽しむ。</li> <li>・身近な自然やものや人にふれ、課題をもって考えたり工夫したりしてかかわる面白さを味わう。</li> </ul>
B 様々な感覚を はたらかせて 感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然やものや人との直接かかわり、五感をはたらかせて、その特徴や変化に気づいたり、イメージを膨らませたりする。</li> <li>・身近な人にかかわりながら、相手の気持ちを意識したり、お互いが心地よく過ごすためのルールを守ろうとしたりする。</li> </ul>
C-1 発見したことや 考えたことを 表したり 発展させたり すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なものを見て感動したり不思議に思ったり試したりしたことを様々な方法で伝え合うことを楽しむ。 (例えば、すりばちを使った自然物での色水遊び・石けん遊び・砂遊び・植物を育てるなど)</li> <li>・感じたことやイメージしたことを、様々な方法で表したり、より自分らしく工夫して表したりすることを楽しむ。</li> </ul>
C-2 感じたことや イメージしたことを 表したり 発展させたり すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの気持ちや友だちのいいところを感じたり気づいたりしながら、共通のイメージを楽しむ。 (例えば、よく見て描く・イメージして描く・経験したことを描く・共同画など)</li> </ul>

<発見科 教科目標>  
身のまわりの自然や地域社会にかかわる体験活動を通して、それらに対する愛着を抱くとともに、自然や地域社会の事象の特性や関係の理解につながる認識の基礎や、自ら活動を起こしたり見通しをもって行動したりするための実践力の基礎を養う。

1 年	2 年	育みたい力の観点	発見科 a
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育・栽培活動や身近な素材を用いた製作活動などを通して、疑問を見つけることを楽しむ。</li> <li>・自分の生活に関係のある人々に親しみを感じたり、道具や施設などを大切に扱おうとする意欲をもったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続した活動において、疑問や問題の解決にむけて取り組むことを楽しむ。</li> <li>・身近な地域の自然や人々の様子・設備などに興味や親しみをもつ。</li> </ul>	身近な自然や地域社会への愛着	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚器官を働かせて対象をじっくり見たり、本物やモデルとそっくりなものを作ったりする過程で、数、色、構造、形など具体的な観点をもって見つめなおし、特徴をつかむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較することで違いを見つけ、それぞれの特徴(構造、役割など)をつかむことができる。</li> <li>・ごっこ活動をすることで、人の行動の意味や行動とものとの関連を考えることができる。</li> </ul>	思考	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚器官を通して感じたことを、絵や文で表すことができる。</li> <li>・身近な場所と絵地図を対応させ、位置を絵地図で表すことに気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較したことを表に表すことができる。</li> <li>・簡単な地図に表すことで、分布やどのような所にあるか特徴を表すことができる。</li> </ul>	認識の基礎 表現	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し見たり試したりすることによって、特徴をつかんだり、問題点を解決したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何に焦点をあてれば問題の解決や目的の実現につながるかという見通しをもって活動できる。</li> </ul>	実践力	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接体験を通して、感じたりイメージしたり表したりする表現活動に興味をもち楽しむ。</li> </ul>	関心・意欲・態度	表現科 b	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な感覚を働かせる活動を体験し、感じたことを一人ひとり自分の中に蓄積することができる。</li> <li>・いろいろな感覚を使ってバランスよく働かせることができる。</li> </ul>	感じる力 イメージする力		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な感覚を働かせて感じたことをそっくりそのまま取り出したり、自由に変形したり、解体したり、再構成したりすることができる。</li> </ul>	自分の思いを表す力		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージしたことを「音」「色・形・質感」「動き」「言葉」など多様な方法で表すことができる。</li> </ul>	相手の思いを受けとめる力 双方向に表す力		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちとの表現の違いに気づき、そのよさを認めることができる。</li> <li>・友だちの表現方法を互いに共有し、相手の思いを受け止めていくことができる。</li> </ul>			
1 年	2 年	育みたい力の観点	
<p>&lt;表現科 教科目標&gt; 様々な感覚をはたらかせながら感じ、イメージし、表すという一連の表現活動のプロセスを通して、表現する力を培う。</p>			

図1 発見・表現の時間、発見科・表現科の目標系統図

### 3. 「発見・表現の時間」と発見科・表現科のつながり

#### 3.1 目標の系統

幼稚園年長における「発見・表現の時間」と、小学校第1・2学年における発見科・表現科それぞれの目標が、どのようにつながっているかを示したものが図1である。

小学校第1・2学年は、発見科①と表現科②が教科として新設されているので、それぞれに教科目標及び観点別目標を設定している。一方、幼稚園年長では「発見・表現の時間」③というように、発見科、表現科双方につながる視点を併せもった総合的な活動としてとらえて目標及び観点別目標を設定している。

観点別目標については、「発見・表現の時間」から発見科、表現科に向けて矢印が示されている④。先に述べたように、「発見・表現の時間」は発見科、表現科双方につながる視点を併せもった目標を設定しているので、この観点別目標においても、発見科、表現科に向けてそれぞれが個別に対応しているというより

は、総合的につながっていることを示している。

#### 3.2 内容の系統

「発見・表現の時間」と、発見科・表現科それぞれの内容が、どのようにつながっているかを示したものが図2である。

幼稚園では、日々の活動の中から特に「発見・表現の時間」の目標につながる活動として、大きく4つの活動内容の柱を設定している⑤。小学校では、発見科の活動内容を⑥のように、表現科の活動内容を⑦のように設定している。

「発見・表現の時間」の内容から、発見科、表現科の内容に向けて、その関連性を実線と破線で示している⑧。実線は主に発見科につながるもの、破線は主に表現科につながるものとして表している。また、線の太さは、「発見・表現の時間」の内容と発見科、表現科の内容の関連性の深さを示している。つまり、線が太いほど、それぞれの関連性が深いととらえ、細いも

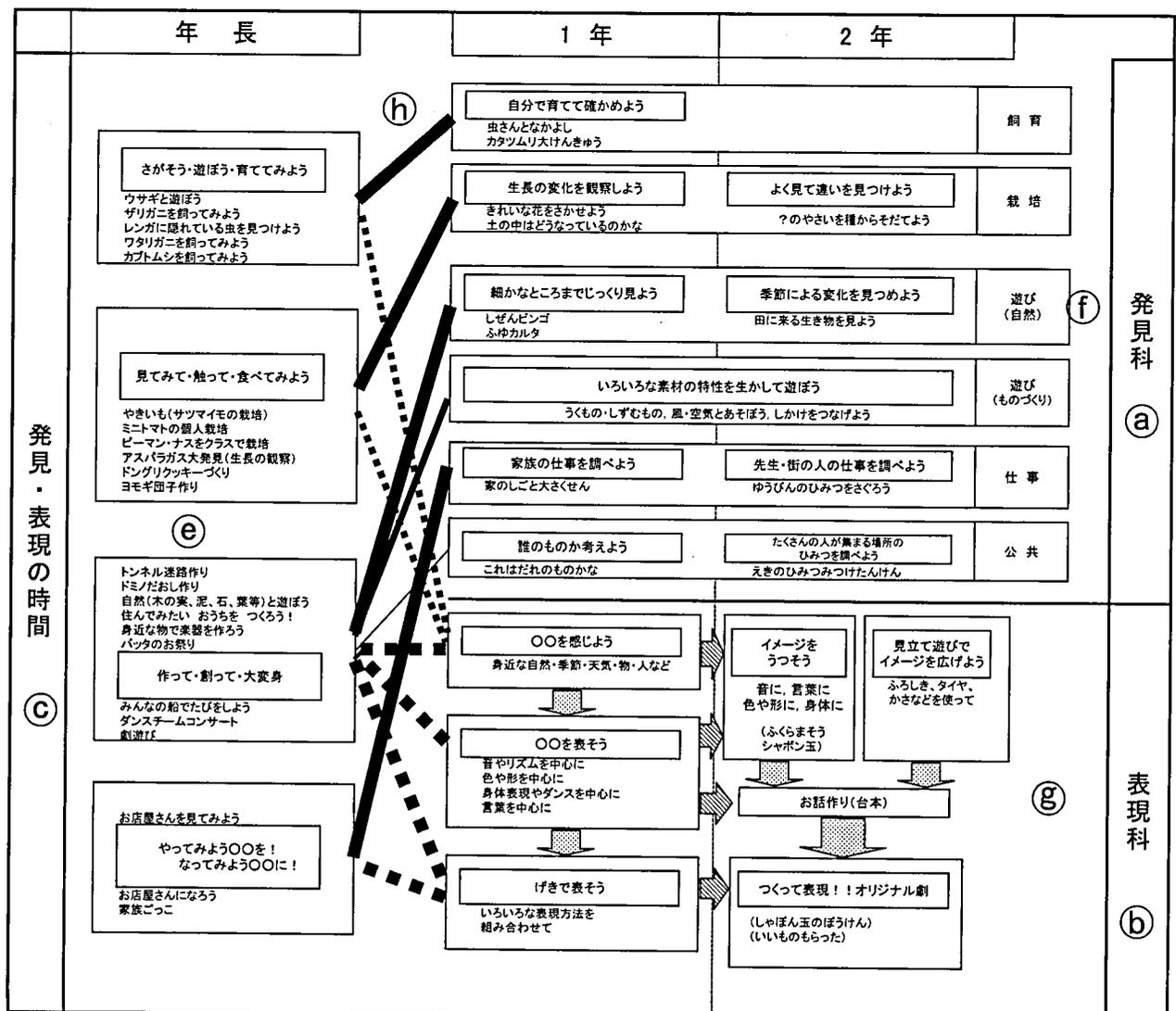


図2 発見・表現の時間、発見科・表現科の内容系統図

のは、関連性は浅いながらもつながっているとらえている。

#### 4. 「発見・表現の時間」の活動内容の柱

##### 4. 1 各柱の概要

日々の活動を「発見・表現の時間」の目標の観点から見つめなおし、4つの活動内容の柱を設定した。その概要を示す。

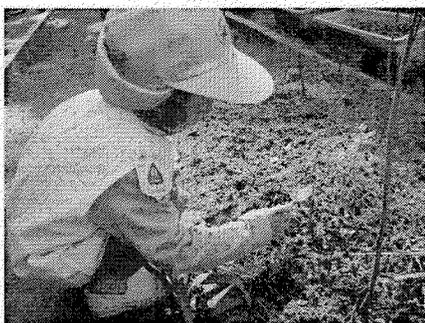
##### 「さがそう・遊ぼう・育ててみよう」

身近な自然事象との直接体験の中で、特に小動物へのかかわりに重点をおいている。小動物に興味をもち、五感を働かせながら繰り返しかかわっていくことで、愛着を抱くようになることはもちろんのこと、特徴や変化などにも気付くようになることを大切にしている。更に身近な小動物にかかわって、感じたことやイメージしたことなどを考えたり試したりしながら、様々な方法で表せるようになることも大切にしている。



##### 「見てみて・触って・食べてみよう」

身近な自然事象との直接体験の中で、特に植物へのかかわりに重点をおいている。身近な植物に直接触れながら、繰り返しかかわっていくことで特徴や生長について気付くようになる。そこから植物の不思議さや疑問を感じたりイメージを膨らませたりしたことを様々な方法で表せるようになることを大切にしている。



##### 「作って・創って・大変身」

この柱は、自分たちの思いやイメージしたことを表していく製作活動と、踊りや劇、身体表現などを創り出す活動の二つに



分かれている。

自分たちの思いやイメージしたことを表す製作活動では、様々な素材とふれあいながら、イメージしたことや課題になっていることを、試行錯誤して表すことを大切にしている。また、イメージしたことを友だちと伝え合ったり見合ったりし、いいところを生かして製作することも大切にしている。

踊りや劇、身体表現などを創り出す活動では、身近なものや人とかかわり、様々な刺激を受けて感じたことからイメージを膨らませるようになる。そして、自分たちがイメージしたものになっていくよう踊りや劇、身体表現などで工夫しながら表すことを大切にしている。



##### 「やってみよう〇〇を！ なってみよう〇〇に！」

自分たちがなりたい〇〇（例：お店屋さん・大工さん）になるため、それらに関係した気付きや発見をごっこ遊びに取り入れることに重点を置いている。更に、なりたい〇〇をより本物らしくするために試行錯誤し、工夫して表すことにも重点を置いている。活動内容については、自分たちがなりたい〇〇に関係した施設などに行き、その場の雰囲気を感じながら見学する活動と自分たちがなりたいごっこ遊びの二つの活動を合わせて行う。そうすることで、なりたいものに一層興味、関心が増すと共に、ごっこ遊びに没入し楽しむことを大切にしている。



##### 4. 2 各柱の目標

幼児期の子どもは遊びを通して身近な対象に対し、いろいろなことを感じたり表したりしている。発見することと表現することの両者を併せもった活動内容にすることで、子どもの感じ方や表し方を育てていこうにしたい。そこで、それぞれの活動内容の柱に対し、経験させたいことと養いたい力の観点(A~C1・2)に合わせた具体的目標を設定した(表1)。

表1 発見・表現の時間の各活動内容の柱の目標

柱	目 標	活 動 例
さがそう・遊ぼう・育ててみよう	<p>A：身近な小動物に親しみを感じ、繰り返しかかわることを楽しむ。</p> <p>A：身近な小動物への興味、関心から自分たちで育てたい世話したいという気持ちを持ち、実際に育てていきながら小動物への愛着をもつ。</p> <p>B：身近な小動物に五感をはたらかせてかかわりながら、特徴や違い、変化などに気付いたりイメージをもったりする。</p> <p>C-1：身近な小動物を見て感動したことや不思議に思っ試したことを友だちや保育者に様々な方法で伝え、更に試行錯誤したり工夫したりして表すことを楽しむ。</p> <p>C-2：飼っている小動物の成長や動きから感じたことやイメージしたことを身体や言葉や絵など様々な方法で表すことを楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウサギと遊ぼう</li> <li>・アメリカザリガニを飼ってみよう！</li> <li>・レンガに隠れている虫を見つけよう！</li> <li>・わたりがにと遊ぼう！</li> <li>・カブトムシを飼ってみよう！</li> </ul>
見えて・触って・食べてみよう	<p>A：身近な植物に親しみを感じ、繰り返しかかわることを楽しむ。</p> <p>B：身近な植物に直接触れることを通して、特徴や変化、生長から植物の不思議さや疑問を感じたりイメージを膨らませたりする。</p> <p>C-1：自分たちが栽培している植物がどのようにすればよく生長するか考え、見たこと、聞いたことを生かしながらかかわる。</p> <p>C-2：身近な植物の生長などに気付くことを通して、感じたことやイメージしたことを身体や言葉、絵など様々な方法で表すことを楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やさいも（さつまいもの栽培）</li> <li>・ミニトマトの個人栽培</li> <li>・ピーマン、ナスをクラスで栽培</li> <li>・アスパラガス大発見（アスパラガスの成長を観察）</li> <li>・どんぐりクッキー作り</li> <li>・よもぎ団子作り</li> </ul>
作って・創って・大変身	<p><b>自分（たち）の思いやイメージしたことを表していく製作活動</b></p> <p>A：身近なものや自然に興味や関心を持ち、自分たちなりの課題をもって考えたり工夫したりしてかかわる面白さを味わう。</p> <p>B：身近なものに直接かかわり、五感をはたらかせることを通してその特徴に気付いたりイメージを膨らませたりする。</p> <p>C-1：自分たちがイメージしたものになるよう、または課題と思っしたことにかかわるよう試行錯誤して表すことを楽しむ。</p> <p>C-2：自分が体験したことから感じたことやイメージしたことを友だちと伝え合い、いいところを生かしているいろいろな方法で表し、一緒に遊びを進める楽しさを味わう。</p> <p>C-2：自分の思いやイメージしたことを表し、見立てて遊んだり工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p><b>歌や踊りや劇などを創り出す活動</b></p> <p>A：身近なものや人の様子を見たりふれたりしながら、自分たちなりの課題をもって考えたり工夫したりしてかかわる面白さを味わう。</p> <p>B：身近なものや人と直接かかわり、様々な刺激を受けて感じたことから、イメージを膨らませることを楽しむ。</p> <p>B：友だちの気持ちを感じたり、お互いが気持ちよく遊びを進めるためのルールを守ろうとしたりする。</p> <p>C-1：自分たちがイメージしたものになるよう、または課題に思っしたことにかかわるよう試行錯誤し、工夫して表すことを楽しむ。</p> <p>C-2：自分の思いやイメージしたことを表したり、友だちが表した中からいいところに気づいたりし、表す楽しさを味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トンネル迷路作り</li> <li>・ドミノたおし作り</li> <li>・自然（木の実・泥・石・葉など）と遊ぼう</li> <li>・住んでみたい おうちをつくらう！</li> <li>・身近な物で楽器を作らう</li> <li>・パッタのお祭り</li> <li>・みんなの船で旅をしよう</li> <li>・ダンスチームコンサート</li> <li>・劇遊び</li> </ul>
なってみよう！！	<p>A：自分たちがしてみたい〇〇になるように、友だちと話し合ったことについて課題をもって考えたり工夫したりしてかかわる面白さを味わう。</p> <p>B：遊んでいくうえで自分たちがなりたい〇〇（お店屋さん・大工さん）になるよう、実際にその人たちがいるところへ行って見たり聞いたり嗅いだりしながらその場の雰囲気を感じる。</p> <p>B：自分の生活に関係のある人にかかわりながら、お互いが心地よく過ごすための集団のルールを守ろうとする。</p> <p>C-1：身近にある事象を見たり施設に行ったりして発見したことや気付いたことを自分たちのごっこ遊びに取り入れようとし、より本物らしくするために試行錯誤しながら工夫していく。</p> <p>C-2：友だちと感じたことやイメージしたことを表した中で、お互いのいいところをいかしながら共通のイメージをもって一緒に遊びをすすめる楽しさを味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店屋さんを見よう</li> <li>・お店屋さんになろう！</li> <li>・家族ごっこ</li> </ul>

- A：身近な自然やものや人に積極的にかかわること
- B：様々な感覚をはたらかせて感じる
- C-1：発見したことや考えたことを表したり発展させたりすること
- C-2：感じたことやイメージしたことを表したり発展させたりすること

## 5. 「発見・表現の時間」における実践

実践1「すんでみたい おうちをつくろう！（おうちづくり）」 5歳児（7月）

### （1）おうちづくりに関する子どもの姿と遊びの流れ

4月から身近な材料や遊具を利用しておうちを作る子どもたちの姿が見られた。その子どもたちは、登園するとおうちについてのイメージを友だちと伝え合いながら作っていた。

#### 【子どもたちの主体的な遊びの中でおうちを作る姿】

大型積木がある部屋（以下『積木の部屋』と呼ぶ）では、子どもたちが大型積木を使っておうちを作っていた。子どもたちはそれぞれが“こんな おうちだったら いいな”というイメージをもち、イメージしたことを友だちと伝え合い、その中から“いいな”と思うところを生かしながら作っていた。例えば、長い板を使ってすべり台付きの家にしたり、周りを海に見立て、迷路のような橋がある家にしたりしていた。

保育室では子どもたちが段ボールを開いてくっつけ、周りを囲むようにしていくつかの部屋があるおうちを作っていた。次に部屋に必要なものを友だちと考え、空き箱やビニールひもを使ってテレビ、ソファ、シャワー、冷蔵庫などを作っていた。冷蔵庫は発泡スチロールの箱をダンボールに入れ、上段と下段の扉も付け、工夫しながら作っていた。

#### 【お菓子の家をきっかけにみんなでおうち作りをすることに】

子どもたちのおうちへの興味が広がっていく中で、絵本『ヘンゼルとグレーテル』（山室 静：文・松村 太郎：絵・フレーベル館）を読み聞かせた。絵本の中に登場する“お菓子の家”をきっかけに、子どもたちから“みんなで おうちをつくりたい”“グループで つくろう！”という声が上がった。それによりクラス全体で、グループによるおうちづくりをすることにした。そして、一人ひとりが“すんでみたい おうちが こんなおうちだったらいいな”とイメージしたことやおうちについて考えたことを出し合いながら、共同でおうちを作っていくようにした。

### （2）保育者のかかわりと環境構成

おうちをみんなで作っていくうえで、子どもたち一人ひとりが“こんなおうちに すんでみたい”というイメージが膨らむようにしたいと思った。そこで、次のような手立てを講じた。

#### 【住んでみたいおうちのイメージが湧くきっかけとなるような絵本の提供】

キノコの家や帽子の家など空想的な家が登場する絵本や子どもたちにとっては身近にある物で素敵なおうちを作っていく絵本などを読み聞かせていった。また、

子どもたちがいつでも手にとって見るができるようにしておいた。

#### 【材料や作る場所をきっかけに住んでみたいおうちのイメージを膨らませる】

子どもたちが今までに使ったことのない材料を用意してみた。色彩のあるカラービニール袋やカラークラップボール紙、軽くて扱いやすいすだれや網、シーツなどである。また、おうちを作る場所も保育室に限らず遊戯室や積木の部屋も開放し、（園庭の開放は、雨のため中止した。）跳び箱や大型積木など園舎内の遊具も使えるようにした。

#### 【他のグループのいいところを生かしていくことでイメージを膨らませる】

グループによっては、イメージが膨らんでいかない場合もあるだろうし、どのように作っていいかわからず迷いが生じることもあるだろう。そんな時に他のグループがどのように作っているかを自由に見て回れるようにしたり、どんなイメージをもって作っているか友だちが紹介したりできるようにした。

### （3）ねらい（発見・表現の時間の目標・4つの視点の中からこの視点に絞って）

#### C-2：感じたことやイメージしたことを表したり発展させたりすること

・絵本に登場する家や材料を見て感じたり、他グループのいいところを見たり聞いたりしながら、自分たちが住んでみたいおうちをイメージし、そのイメージしたおうちになるよう、友だちと試行錯誤しながら作っていく。

### （4）実践内容

絵本『へんてこハウス』（たむら しげる：作・絵岩崎書店）を見た後、材料を選び、場所を決めておうちづくりが始まった。作る場所は7グループ中、6グループが遊戯室で1グループ（Cグループ）が積木の部屋となった。

#### 【AグループとBグループ】

Aグループの子どもたちが大きな段ボールを二つ重ねていた。それを見た隣のBグループのH男。

H男：「うわっ にかいだてに しているの？」

d女：「そうよ にかいだてに するんよ〜」

H男：「ほくも にかいだてにしよう」

H男が同じグループの女の子と一緒に大きな段ボールを持ってきて2階建てのおうちにしようとする。Aグループは更に中、小の段ボールを1階の壁に段々になるようにくっ



【2階建てにしよう！】

つけ、2階につながる階段にしていた。2階ではテレビを見ることができるようにした。Bグループもテレビをつけ、女の子たちはシーツを布団にして寝たりおうちに絵をかいたりしていた。Aグループのa女もシーツを持ってきて寝ることができるようにし、おうちに絵もかいていた。

#### 【Cグループ（積木の部屋）】

積木の部屋には大きい段ボールがなかったので、Cグループはカララボール紙を中心におうちを作ろうとしていた。カララボール紙を壁として使用したいという思いがあったらしく、平たいカララボール紙を立てて使おうとして、布テープで床に固定しようとしたが、思うように立たなかった。しかし、試行錯誤して2個の積木をカララボール紙の前後に挟むように置くことで立てることに成功した。2日後

にCグループは小さいながらもすだれやカララボール紙で周りを囲ったおうちを完成させた。完成はしたものの他のクラスの友だちが遊びに来ておうちが壊れてしまうことが何度かあり、Cグループ

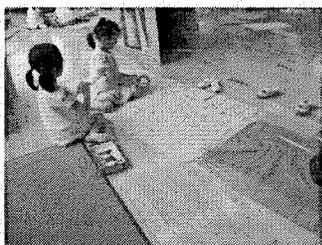


【壁になるようにしたいなあ】

の子どもたちは困っていた。そこで、どうしたらいいか考えた結果、おうちを遊戯室に移動させることにした。遊戯室に行ってみるとCグループとは全く違ってスペースを広くとったおうちや部屋の中のもの（ベッドや椅子など）を揃えているおうちなどがあつた。Cグループはそれらのおうちを参考にしながら新たにおうちを作って広げたりおうちの中のもの揃えたりしていった。（例：ベッドや隣のおうちに続くトンネルなどを作り始めた。）他のグループもCグループが考えた壁となる平たい材料の立て方を見て生かしながら作っていた。

#### 【Cグループ（遊戯室に移動してから）とDグループ】

遊戯室に移動してからのCグループは寝る部屋となる段ボールのふたを切り取り、カララビニール袋を覆ったことで、上を向いて寝ると外が緑色に見える部屋にした。また、DグループはCグループと同じ方法で段ボールのふたを切り取って網を覆っていた。部屋の中を涼しくするためである。この他、Dグループはカララビニール袋を平たくした段ボールに敷き詰めてカララ絨毯にもしている。彩りを楽しめるようにしただけでなく、



【カララ絨毯を作ろう！】

寝転がった時につるつるした感触を味わえるようにしていた。

#### （5）成果と課題

手立てに沿って成果と課題を述べる。

#### 【住んでみたいおうちのイメージが湧くきっかけとなるような絵本の提供】

子どもたちはおうちに関する絵本を見たことで、“カララ絨毯のあるおうちがいい”“二階建てのおうちがいい！”などと具体的なイメージをもつことができた。絵本を見て、“おうちを作りたい”という思いを強くしたことから、“自分だったらこんなおうちがいい！”というイメージが湧いたのだと思われる。このようにイメージが湧くと、今度はイメージに近づけられるよう、工夫しながら作ることに繋がっていた。

#### 【材料や作る場所をきっかけに住んでみたいおうちのイメージを膨らませる】

おうちを作っていくうえで、子どもたちにとってカララビニール袋、網などは工夫しやすく、見立てやすい材料であった。材料や遊具の特徴が子どもたちの興味や関心を促し、イメージを膨らませやすくしたと思われる。それにより、CグループやDグループのように、材料や遊具の特徴からイメージを膨らませ、その特徴をうまく利用して作ることに繋がった。

おうちを作る場所については、それぞれの場所にある材料、遊具だからこそできる作り方があると思われる。それにより、積木の部屋でカララボール紙を立てることにCグループは試行錯誤して成功したのではないかと思われる。

#### 【他のグループのいいところを生かしていくことでイメージを膨らませる】

各グループが他のグループの作るおうちを見て刺激を受け、そこからイメージを膨らませながら作っていた。そして、膨らんだイメージのおうちになるよう、何度も試行錯誤を繰り返して作っていた。決して真似ばかりするのではなく、“いいな”と思ったところを生かして、更に自分たちなりに発展させていくことが大事だと考える。お互いがいいところを参考にし、“こんな方法もあったのか”と気づきながら作ることは、子どもたちにとって新たな方法を知り、表現を高めていく力になると思われる。それと同時にイメージを膨らます大きなきっかけにもなると思われる。

他のグループとのかかわりということからは、作る場所については範囲を広げずに、遊戯室だけに絞ったほうがよかったという考え方もできる。その方が、他のグループが作っているところを見たり、どんなイメージで作っているか聞いたりすることがしやすくなる

と思われる。作る場所については、おうちを作っている子どもの姿やねらいに応じて保育者が考慮することが必要と考える。

## 実践2 「つくって遊ぼう」～身近な素材を使って音をつくって遊ぼう～ 5歳児（11月～12月）

### （1）実践にあたって

秋にお店屋さんごっこをする中で、身近な素材で楽器を作り、それをお店の景品にする姿が見られた。そのことをきっかけにしながら、自分で楽器を作る姿が見られるようになってきた。ちょうど秋の自然物も豊富に手に入る時期でもあり、様々な楽器を作って遊ぶ中で、試したり工夫したりすることができるのではないかと考え、楽器作りの遊びが広がったり深まったりできるようにかかわっていくことにした。実践にあたっては、次のような保育者のかかわりや環境構成に配慮した。

- ・一人ひとりの発見や表現を丁寧に受け止め、認める。
- ・子どもたちが何に気づき、どんなことを工夫しようとしているのかを読み取り、それに必要な素材を用意する。
- ・クラス全員が集まったときに、自分が作った楽器を披露するとともに、一人ひとりの発見や表現を認めることで、友だちのよさを認め合い、お互いのいいところを生かしていけるような雰囲気づくりに心がける。

### （2）ねらい

#### A：身近な自然やものや人に積極的にかかわること

- ・身近な素材で楽器を作ることを通して、自分なりの課題をもって考えたり工夫したりする面白さを味わう。

#### B：様々な感覚をはたらかせて感じる

- ・身近な素材を扱いながら、五感を働かせることを通してその特徴に気づいたり、イメージを膨らませたりする。

#### C-1：発見したことや考えたことを表したり発展させたりすること

- ・自分がイメージしたものになるよう、試したり工夫したりしながら表すことを楽しむ。

#### C-2：感じたことやイメージしたことを表したり発展させたりすること

- ・自分がイメージしたことを友だちと伝え合いながら、楽器を作る楽しさを味わう。

### （3）実践内容

#### 【いろいろなものを使って楽器ができるよ】

子どもたちの身近に様々な素材を用意しておく、

登園してからすぐに、個々であるいは友だちと一緒に楽器を作っては、保育者や友だちに聞いてもらうことを楽しむ姿が見られる。

- ・トレイに輪ゴムをかけて、輪ゴムを指ではじきながら「強くやるとこんな音がして、弱くやると音が違うよ」
- ・大きいペットボトルの凹凸を割り箸でなでるようにすべらすと音が出ることを発見して「ほら、ここでも音がするよ」と言いながら、「あっ、そうだ!」とストローの曲がる部分のギザギザを指でかくるようにして「やっぱりここでも音がする」



【楽器を使って演奏会をしよう】

#### 【みんなでマラカスを作って遊ぼう】

輪ゴムで弦楽器のように遊ぶ姿から、マラカスを作って遊ぶ姿が見られ始めたので、クラス全体でマラカスを作って遊ぶ場を設ける。

#### 〈聞こえてくる音を擬音で表現する〉

- ・ペットボトルに石やさら粉を入れて振りながら「コロシヤカコロシヤカって音がするよ」同じように作った友だちが「僕のはね、シャランシャカって音がするよ」
- ・アルミ缶に木の実とドングリを入れると「ナナナナッって音がするよ」
- ・牛乳パックに葉っぱを入れると「サラガラ音がする」
- ・アルミ缶の中にドングリを入れ、外にタフロープで飾りを作って振りながら「タフロープがカシュカシユ言って、ドングリがカコカコと音がする」

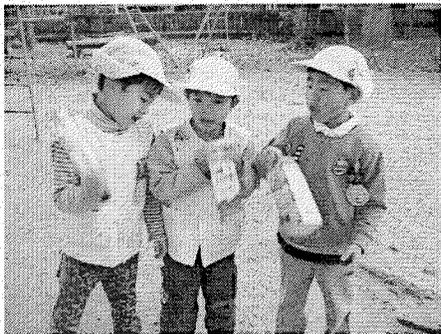
#### 〈聞こえてくる音からイメージしたものを別のものに例えて表現する〉

- ・スチール缶にドングリを2個だけ入れて振りながら「目覚し時計の音がする」
- ・プリンカップにドングリを入れて速く振りながら「鈴のようにシャンシャンって音がする。やさしくすると、音がきれいになるよ。でもね、横にして回すと太鼓の音に聞こえるよ」

#### 〈友だちとお互いの音を比較してみる〉

- ・友だちと同じように牛乳パックに石を入れて、二人

で音を聞き比べながら「何か音が違うねえ。ほくのはちょっとさら粉が入るとるけえかねえ」



【ねえねえ、どんな音がする？】

#### 【1年生さんの楽器作りの授業を見せてもらおう】

ちょうど1年生での発見科の授業でも児童が身近な素材を使って楽器を作るという活動があったので、その授業を見せてもらうことにする。

- ・自分たちが使ったことのないアルミホイルを、木の枝に巻きつけ、それに割り箸をこするようにして音を出している様子に驚いている姿。
- ・ヤクルト容器に厚紙を切って入れている姿を見て、厚紙そのものは身近にあってもそれを楽器作りにこのように生かしたことはなく、厚紙でも楽器が作れるということを発見している姿。
- ・アルミ缶を叩いて音が出ることは経験しているが、それを5個つなげて音を出している姿を見て、たくさんつなげるともっと面白い楽器ができるということを発見している姿。など

上記のように、自分たちが使ったことのない素材や、自分たちがしたことのない素材の扱い方を見て驚いたり、発見したりすることができ、自分たちもやってみたいという意欲につながっていった。



【1年生さんの楽器ってすごいね】

#### 【エルマーの冒険の物語に合わせて音を作ってみよう】

音からイメージすることを楽しむことをきっかけにしながら、絵本のストーリーからイメージする音をグループで作って遊ぶという活動を取り入れた。

#### ＜サイがブラシでつのを磨く音＞

J男・B男・E男がペットボトルの中に木の実や紙

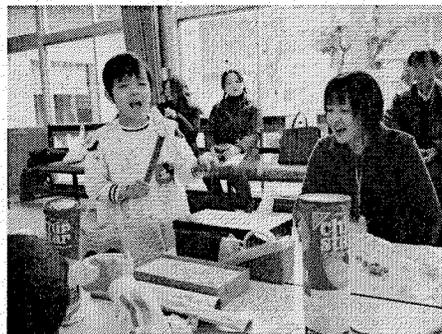
を切ってそうと上下に揺らしながら音を出してみ、耳を澄ませてみる。B男が「まだまだじゃね」と言いながら、3人で更に木の実を取ってきてはペットボトルの中に入れてみる。

#### ＜ライオンがくちやくちやになったたてがみを櫛でとかす音＞

g女とk女が段ボールに紙の筒でスリスリと擦り付けるように音を出している。そのうちに、a女がアルミホイルを使っているのを見つけ、「あっ、そうだ！アルミ貸して」と言いながら、アルミホイルを分けてもらう。そしてアルミホイルを紙の筒に巻きつけ、それで段ボールに擦り付けてみる。g女は「こうやってたてがみをとかすんかね」と言いながら、自分の髪の毛を櫛でとかすような素振りしながらイメージしている。k女は「そうじゃね。もっとこっちにも（アルミを）つけようか」と言いながら、更に巻きつけてみる。

#### ＜ねずみが歩く音＞

f女・h女・o女が同じように紙皿を半分折り、先と先が合わさる所に丸い小さめの木をそれぞれに貼り付け、カスタネットのようにして音を出している。自分の耳に作った楽器をくっつけるようにして音を出してみる。そのうちに、f女は「他にもできないかなあ」と言いながら、割り箸に紙コップを逆さにしたもののかぶせ、それをクルクル回しながら、「あっ、これでも小さい音がする」と言っている。



【ゴリラの歩く音だよ

小学校の先生にも聞いてもらったよ】

#### (4) 成果と課題

11月から12月にかけての、音をつくって遊ぶ活動の中で次のような成果と課題がみられた。

- ・子どもたちのささやかな発見や表現を、一人ひとり丁寧に受けとめて認めていくことや、クラス全員の前で自分が作ったものを披露する場を設けることを積み上げていく中で、子どもたちは聞いてもらえる喜びを味わい、そのことが更にやってみようという試行錯誤や工夫の原動力につながっていった。

- ・一人ひとりの発見や表現をこまやかに見取り、それに必要な素材を用意していくことを積み上げていくことで、子どもたちは更に遊びを深めていく姿が見られた。
- ・音からイメージすることを楽しむ姿が少しずつ見られ始めたので、今回、「エルマーの冒険」という子どもたちの大好きな絵本を取り上げ、そのストーリーからイメージする音を作って遊ぶ活動を取り入れた。その活動の中で、子どもたちは自分が作っている音をよりこまやかに聞こうとしたりする姿が見られた。と同時に子どもたちのストーリーに対するイメージは様々なので、様々なイメージをもっとゆったりと楽しむひとときを大切に積み上げていくことの必要性を感じた。

## 6. 成果と課題

本年度は、幼稚園の「発見・表現の時間」と小学校の発見科及び表現科の目標や内容の系統を整理するとともに、「発見・表現の時間」の活動内容の開発を中心に研究を進めてきた。また、活動内容を開発する際には、活動内容の柱ごとに、経験させたいこと・養いたい力の観点に合わせた具体的目標を設定した。

このことから、次のような成果と課題が見られた。

〈子どもたちの姿より〉

- ・活動内容ごとに、経験させたいこと・養いたい力の観点に合わせた具体的目標を設定し、それに応じて子どもたちの姿を丁寧に読み取り、共感的に受けとめ、価値づけていくことで、子どもたちの更に発見したい・表現したいという意欲や態度を育むことができた。例えばお家づくりや楽器遊びなど一つの活動を通して、個々であるいは小グループで、あるいはクラス全体で継続してかかわって遊ぶ姿が見られるようになってきた。
- ・子どもたちの姿や、活動の目標や内容などを常に幼稚園・小学校の教員が話し合うことを通して、同じような活動内容があれば幼稚園児が小学校の授業参観に行ったり、小学校教員が幼稚園の保育に実際に携わったりするなど、柔軟な連携を行うことができた。そのことで、子どもたちにとっては、例えば年長児が1年生の授業を見せてもらうことで、自分たちの遊びを広げるヒントやアイデアをもらったり、小学校教員が保育に参加し、子どもたちの思いを丁寧に受けとめ、意味づけたり価値づけたりすることで、自分たちの発見や表現を広げたり深めたりする喜びを更に感じたりすることができた。

〈研究を通して〉

- ・子どもたちの姿や、活動の目標や内容などを幼稚園・小学校・大学の教員が話し合うことを通して、上記に述べた柔軟な連携とともに、子どもたちの姿についての具体的な情報の交流を行ったり、教材研究の際に様々なアイデアを自由に出し合ったりすることができた。そのことで、一つひとつの活動を通して子どもたちに何を育むことが大切なのか、そのためにどうしたらいいのかということを目の前の子どもの今現在だけをとらえるのではなく、階層的にとらえながら明らかにしようとすることができた。今後も互いの具体的な話し合いを通して、それぞれの独自性と共通性を明らかにしていきたい。
- ・今後、「発見・表現の時間」を実施した効果を1年間を通して評価していく予定である。その結果をもとに、更に「発見・表現の時間」が子どもたちにとって充実したものになっていくように、研究を進めていきたいと考えている。
- ・本年度は、幼稚園の「発見・表現の時間」と小学校の発見科及び表現科の目標や内容の系統を整理することができた。今後は、更に子どもの経験を階層的に生かすための活動内容や指導法を開発していきたい。

## 参考文献

- 1) 井上弥他, 「子どもの経験を階層的に生かす幼小連携カリキュラムの開発(1)」, 『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第32号, 2004
- 2) 井上弥他, 「子どもの経験を階層的に生かす幼小連携カリキュラムの開発(2)」, 『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第33号, 2005
- 3) 井上弥他, 「子どもの経験を階層的に生かす幼小連携カリキュラムの開発(3)」, 『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第34号, 2006
- 4) 井上弥他, 「子どもの経験を階層的に生かす幼小連携カリキュラムの開発(4)」, 『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第35号, 2007
- 5) 広島大学附属三原学園編『21世紀型"読み・書き・算"カリキュラムの開発』明治図書2005